青森県総合社会教育センター主催事業報告

生涯学習・社会教育関係職員研修講座

令和8年11月4日(水)10:00～15:00　青森県総合社会教育センター　受講者34名

1　内容



【テーマ】

「生成 AI 活用アイデアと社会教育での実践方法」

【講　師】エイチピースタイリング　代表　髙森(たかもり)　三樹(みき)　氏

【経　歴】

2005 年に「エイチピースタイリング」を設立。Web サイトの企画制作・コンサルティング等に従事しながら、ＩＣＴを教育現場や障がいのある方にも活用できる方法を研究。

2014 年には、モバイル業界における最高峰の賞である「モバイルプロジェクト・アワード」の社会貢献賞を受賞。

【講義要旨】

○生成 AI は大量のデータを学習し、次の言葉を予測して文章や画像を作り出します。リアルな応答や創作が可能になる一方で、情報の正確さには注意が必要です。

○生成 AI で最も重要な注意点は、AI が自信満々に「それっぽい間違い」を話すこと、つまりハルシネーション（幻覚）が起きることです。そのため、日付や金額、名前など重要な情報は必ず人が確認する必要があります。

○よく使われる生成 AI には、Gemini（Google）、ChatGPT（OpenAI）、Claude（Anthropic）、Copilot（Microsoft）等があり、質問や相談、文章作成、情報整理など幅広い用途に対応しています。

○指示（プロンプト）は「役割」「目的」「条件」「形式」の 4 つの要素で成り立ち、これらを組み合わせることで具体的で分かりやすい指示ができます。

○生成 AI を安心して使うには、個人情報を含めないこと、著作権を守ること、公平で配慮ある表現を心掛けることが大切です。利用前後に内容の正確さや適切さを必ず人が確認し、AI 利用を正しく伝えることも重要です。

○下書きや案出しは AI に任せ、最終確認や判断、責任は人が行うことが大切です。AI は適度に活用し、AI 活用で生まれた時間を人と向き合う時間に使いましょう。

2　受講者の感想

・生成 AI を日頃から使っていましたが、指示の出し方が難しいと感じることがありました。今回の研修で学び、より良い活用ができそうです。

・生成 AI にも種類があり、得意・不得意があることが分かりました。仕事では特性に合わせて使い分けていきたいです。

・これまでも業務で生成 AI を使ってきましたが、実践が中心で座学でじっくり学ぶ機会がなかったので、大変良い勉強になりました。